

◆体裁について

- ・横書きにする。
- ・1 行 50 文字とする。

◆翻字について

- ・「翻刻」ではなく「翻字」の語を用いるようにする。
- ・訳に合わせて句読点、濁点を打つ。
- ・会話文には鉤括弧をつける。心内表現に鉤括弧をつけるかは、各担当者にまかせる。
(例)「〜」と、おほせらる。

※「と」の後に読点を打つ。

- ・和歌は句の切れ目にスペースを入れる。
- ・踊り字「／＼」の濁点は、「／＼」と表記する。
- ・誤字や表記上誤解を招きそうな箇所には、(原文通り)を入れる。
- ・巻名は、3 字下げにする。訳もこれに準ずる。
- ・傍記、合点は言葉の句切りのところに入れる。
- ・「けしき」「けはひ」の母字に「気」が使用されている場合は「気しき」「気はひ」とする。
- ・「雲井」は「雲ゐ」、「雲居」は漢字表記とする。
- ・「物の気」は「物の氣」の表記のままとする。現代語訳では「物の怪」の表記とする。

◆現代語訳について

- ・海外の人が理解できるよう、平易な文で訳すことを旨とする。
- ・公立高校入試を控える中学 3 年生くらいのレベルで現代語訳を作っていく。
- ・「です」「ます」体に統一する。
- ・主語を明確にする。
- ・できるだけ理解しやすいように言い換える。
- ・文はできるだけ切る。
- ・敬語にはこだわらず、忠実でなくともよい。
- ・敬語は帝につける程度でよい。
- ・「何とか」といった抽象的な語はさける。
- ・「方」は、「女性(女)」「男性(男)」「人」などの語に置き換える。
- ・「もの心細げ」の「もの」は、心細い「様子」といったように訳出する。
- ・訳文は 1 文が長くないようにする。1 文は 50 字くらいまでの長さが好ましい。100 字以内に収めるようにする。
- ・「そば」という言葉を用いるときは、平仮名表記。

- ・和歌は訳さず、句ごとにスペースをおき、表記通りにする。
- ・「女房」は混乱をさけるため、「侍女」などの語に変換する。
- ・巻名に括弧はつけない。
- ・卒業論文を書くような大学生が手書きで書けないような漢字表記は平仮名にする。
- ・誤字や表記上誤解を招きそうな箇所には、翻字に（原文通り）を入れ、現代語訳では直して表記する。和歌の場合、翻字はそのままにし、訳は直して表記する。

（例）翻字「じま（原文通り）」→訳「しま」（末摘花巻）

- ・時制は、基本的に原文に従う。ただし、訳出する際に不都合・影響が出ない場合に限る。
- ・分量・数値は算用数字にする。
- ・「人は皆」といった場合は「人々」に変更する。
- ・その他、漢字表記や言葉の意味など、困った場合は、旺文社の辞書・日本国語大辞典を使用する。
- ・「対」は「館」にする。（「西の対」→「西の館」）
- ・逆接の「が」は極力使用しない。
- ・海外の言語に翻訳されたとき、各言語との対照を容易にするために、話の内容にあわせた小見出しを現代語訳の該当する箇所にはさみこむ。

小見出しは翻訳者が理解しやすいように冒頭におくことにする。そのため現代語訳に関しては、対照となる翻字本文の位置と必ずしも同じ位置におかれないこともある。

◆注について

- ・注は原則つけない形とする。
- ・まず現代語訳を作り、訳者から注の依頼を受ける、という形にする。
- ・現在保留。公開時にどうするか検討。
- ・なるべく注がつかないように、名詞は平易なものにたとえる、説明的に訳出するなど、固有名詞を使わない工夫をする。

◆絵について

- ・絵は場面の説明をつける。説明は、5W1H（Who（誰が） What（何を） When（いつ） Where（どこで） Why（どうして） How（どのように））を書く。
- ・絵のキーワードを現代語訳の中から5つ選び、訳に《》をつける。
- ・絵のキーワードは、ネット公開時に色をつけるか。

◆括弧の使い方

- ・（）（丸括弧）…①人物呼称の補足（例）若君（光源氏）のことを…
②その他、補足や補文等（例）（桐壺）
- ・「」（鉤括弧）…①会話文・心内語（例）「…だろうか」と、言いました。

②引用など

※巻名には「」をつけない。

・『』（二重鉤括弧）…①作品名（例）『源氏物語』は、…

②会話文中の会話（例）「ある人のいふやう『…』」とて、…

・〔』（亀甲括弧）…①傍記（例）おもしろきにあそび〔傍・あ／管絃〕をぞし給ふ

②割注（例）あつしく成ゆき〔をもき／病也〕＊／は改行。

訳も〔』内に入れる。

・〈〉（山括弧）…①人物呼称（例）〈桐壺の更衣〉は、…

②和歌の詠者

（例）翻字→〈御〉たづねゆく…

訳→〈帝〉たづねゆく… ＊訳の場合、詠者は1行扱いにする。

③挿絵（例）〈絵100〉 光源氏が…

・《》（二重山括弧）…①絵のキーワード

（例）《紫式部》は、《石山寺》に…

＊訳にのみ使用。

※原則として、とじ括弧の前には句読点をつけない。（例）〔つけない。〕→〔つけない〕

◆登場人物呼称

※登場人物名の一部は、本文の漢字表記を通行の表記に改めてある。

（例）「御休所」→「御息所」、「義清」→「良清」

※「頭の中將」「紀伊の守」など、「の」を補う形を基本とする。

※本文の呼称を載せる際は、「統一呼称（本文呼称）」の形とする。

※人物呼称の表記は、新編日本古典文学全集（小学館）に倣う。

◆主な登場人物

・巻の冒頭に主な登場人物の紹介を入れる。

・5～10人程度の人数を挙げる。